

〔開会の宣告〕

遠藤洋路 教育長

令和2年4月定例教育委員会会議を開会いたします。

〔会議の成立〕

遠藤洋路 教育長

本日は、私のほか5人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。

会議録署名人は、苫野委員と私とします。

通知しておりました案件のうち、議第31号は、取り下げております。

〔公開の審議〕

本日は、招集通知後に追加で協議をお願いしたい案件が発生したため案件を追加しております。

当該案件は、議第33号 熊本市附属機関設置条例の一部を改正する条例案に対する意見について及び議第34号 熊本市立図書館設置条例施行規則の一部改正について並びに議第35号 新型コロナウイルス感染症蔓延防止のための熊本市立学校及び幼稚園の臨時休業措置の延長についてです。

また、本日の議事のうち、議第32号 熊本市特別支援学校等教科用図書選定委員会委員の委嘱等については、委員・研究員の氏名を公開することにより、率直な意見の交換又は意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあること、報告（4）熊本市立学校教員採用選考試験の実施については、正式公表前の案件であることから会議規則第13条第4号「その他の案件」に該当すること、また、議第33号 熊本市附属機関設置条例の一部を改正する条例案に対する意見については、「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する案件」に該当することから、会議規則第13条の非公開事由に該当し、非公開の審議が適当と思っておりますがいかがでしょうか。

議第32号、議第33号及び報告（4）につきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。

（全員挙手）

遠藤洋路 教育長

全員賛成により、議第32号、議第33号及び報告（4）については、非公開とします。

日程第1 前回会議録等承認

遠藤洋路 教育長

3月26日開催の令和2年3月定例教育委員会会議録、4月3日開催の令和2年第4回臨時教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。これらの会議録を承認することに、ご異議はありませんか。

（異議なしの声）

異議なしと認め、前回会議録等を承認することに決定します。

日程第2 事務局報告

（1）事業・行事等報告について

- 前回定例会議（R2.3.26）以降の事業・行事報告
- 今後の予定

日程第3 議事

- ・議第30号 熊本市体罰等審議会委員の委嘱について

《福島慎一 教育政策課長 提案理由説明》

〔採決〕 **【原案どおり承認された】**

- ・議第34号 熊本市立図書館設置条例施行規則の一部改正について

《坂本 三智雄 市立図書館長 提案理由説明》

〔採決〕 **【原案どおり承認された】**

- ・議第35号 新型コロナウイルス感染症蔓延防止のための熊本市立学校及び幼稚園の臨時休業措置の延長について

《福島慎一 教育政策課長 提出理由説明》

遠藤洋路 教育長

ただいま説明がありましたが、本件についてご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

西山忠男 委員	基本的にはこの方向で行かざるを得ないかと思えますけれども、一つお尋ねしたいのは、臨時登校日について当面の間中止とするという、これはどういう考え方でしょうか。
福島慎一 教育政策課長	これまではレベル3のとき、4月3日に、教育委員会で決定してきました臨時休業でございましたが、昨日20日付けでレベル4にほぼ近いレベル3プラスとなりましたことから、蔓延防止の観点から、臨時登校日も設けないと、当面の間、設けないということにさせていただきました。
西山忠男 委員	休校にするということは、子どもたちにも家庭にも相当の負担を強いていることなんですよ。子どもたちのケアの観点からすれば、やはり子どもたちが今どういう状況に置かれているのかということ適切に把握しておく必要があると思うんです。そのために登校日というのは極めて貴重な機会だと思うんです。ですから、教育相談を電話で教育政策のほうで受け付けているというのは承知しておりますけれども、そういう受け身の対応ではなくて、やはり積極的に学校側から子どもたちの状態というのを把握する必要があると思うんです。そういう意味では、ちょっと私は、登校日を中止するというのはいかなものかと思えますけれども。
遠藤洋路 教育長	登校日については、ほかの委員の皆さん、ご意見ありますか。
苫野一徳 委員	<p>登校日があったほうがよいとは思いますが、現実問題としてそのことが感染拡大につながる可能性があると考え、少し非現実的なところもあるかもしれないと思うんですよ。ただ、西山委員がおっしゃったように、フォローアップ体制をしっかりとつくるということしか、代替案はないのではないかなという気がいたします。例えば週に1度、2度ぐらい担任の先生が5分、10分、子どもたちと電話で話をするなりZoomで話をするなり、何かしらのフォローアップ体制の仕組みを早急につくるのが望ましいのではないかと思います。</p> <p>あともう一点、それに付け加えてなんですけれども、もうこれが5月の末の時点で休校が解除されるという可能性も非常に低いということをやはり我々はしっかり考えた上で、長期的にどのようなサポート体制ができるかという、その仕組みづくり</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>を本格的に始める時期だと思しますので、その辺がどれぐらい議論がなされていて、どのような仕組みが今検討されているか等もお聞きできればと思うんですが。</p>
<p>松島孝司 学校教育部長</p>	<p>休校中の子どものサポート体制、それから子どもの状況の把握について、何がどうなっているかということと、今後どうするかということ、事務局から現状の説明をお願いしていいですか。</p> <p>現状としては、1週間に1回程度の登校日を設けるという決定で、その場合の観点としましては大きく2つございます。一点目は学習機会を保障するための登校日であるという捉え、そしてもう一点は、実際子どもたちが登校して、様子を見ることによつて、先ほど西山委員がおっしゃったような子どもたちの現状をしっかり把握し、きちっと対応できるような体制で取り組む、という2つの役割があるというふうに理解しておるところでございます。</p> <p>万が一、登校日ができないとなったときには、電話で個別の確認をするような対応や家庭訪問というのはちょっと現実的ではないような気もしております。オンラインでつながっている場合はそれでいいんですが、例えば小学校の低学年は、なかなかオンラインでの対応が十分できておりませんので、今後完備できていけば、状況は変わってくるという認識を持っております。現段階では、5月7日までの期間におきましては、遠隔授業も何とか間に合わせて、現在の体制をつくっている状況ですので、学校としても直接の子どもたちの状況把握が一回は必要なのかなと思っております。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>今、オンラインで健康観察とか状況把握というのはどのぐらいやっているんですか。</p>
<p>本田裕紀 教育センター副所長</p>	<p>オンラインによる子どもたちの状況把握でございますが、子どもたち全てにカメラ機能がついているという端末がいつているわけではございませんので、全部が全部Zoomで直接顔を見ながらということではございませんが、ロイロノートのカードとかを使って日々つながっている状態で、今の健康状態というのはある程度毎日担任の先生方が子どもたちの様子を元気になるかどうかとか、あと体温がどうなのかとか、体調がどうな</p>

	<p>のかというところについてはできる限りの把握をされていて、どうしても連絡が取れないというご家庭もございますので、連絡が取れなかった場合は、先ほど苦野委員がおっしゃいましたとおり、電話で連絡を入れるというふうなところも各学校で工夫しながらやっているというところでございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>大体全ての家庭と連絡が取れているということなんですか。</p>
本田裕紀 教育センター副所長	<p>ほぼ全ての家庭とは連絡が取れていると思いますが、毎日必ず取れているかどうかまでは、ちょっと私たちも把握はできていませんけれども、学校としてはその努力はされているというふうに認識しているところでございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>毎日取る必要は必ずしもないかもしれませんが、継続的にこれはできているんですかということです。</p>
本田裕紀 教育センター副所長	<p>そこはもう各学校で、いろんな形は変わりますけれども、継続的に状況把握はされているということでございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>では、最低限そういう状況はできているという中で、登校日を設けるのかどうかというところかなど。</p>
西山忠男 委員	<p>登校日を設けるかどうかの判断基準、それから前回の会議で私は申し上げましたけれども、学校を再開するかどうかの判断基準をしっかりと持つべきだと申し上げました。そのことが非常に曖昧だと思うんですね。今回も学校現場としては5月7日から再開できるのかできないのか、やきもきしていると思います。再開するならどういう順序でしなければならないのか、また閉じるんだったらどういうふうにしなればいけないか、いろいろ考えていたと思うんですね。でも、学校側にはどうなるのか判断するすべがないんです。全てこちらが決めること、あるいは市長の要請にかかってしまうというわけですね。これは非常によくはない状況だと思うんです。</p> <p>もう少しきちんとした判断基準を持つべきだということで、私、今日は一つ提案させていただきたいんですけれども、それは再生産数による判断ということです。ちょっと説明させてもらってよろしいでしょうか。</p>

遠藤洋路 教育長

どうぞ。

西山忠男 委員

ご存じの方も多いと思いますけれども、再生産数というのは、1人の人が何人の人に感染させるかということです。例えば、再生産数が2の場合は、1人の人が2人に感染させる。これは1日に2人と簡単に考えましょう。そうすると、2日目には4人が感染することになりますね。こういうふうに、1人、2人、4人というふうに広がっていきますから、その感染者の総数は1プラス2プラス2の二乗プラスで、N日後にはこうなる（ $N = 1 + 2 + 2^2 + \dots + 2^n$ ）わけですね。これは等比係数の和ですから、高校数学の基本で、この式（ $1 - r^n / 1 - r$ ）で計算されるわけです。

これで考えますと、2月20日から4月20日まで60日の間に熊本は41人です。東京は3,200人です。これ、計算しますと、熊本は大体0.99です。1だと、日数と同じですから60人になります。それより僅かに小さい数値で41人です。東京は1.10という数値です。1を超えると感染は拡大するんです。もし1.10のまま東京が推移すると、あと30日後には5万人が感染している計算になります。こういうふうに、実際は抑え込んでいますからそうはならないと思うんですけども、こういうふうに再生産数rを使えば、定量的な予測がある程度可能になるわけですね。

今、熊本はぎりぎりのところにあるというのは確かです。ですから、1を超えてしまったら絶対学校は開けない。けども、このRの数値が5月末で落ちているのであれば、6月からは学校を再開することも考えていいのではないかな。あるいは5月6日の時点でRが下がっていれば登校日を設けてもいいのではないかなというふうに私は考えている次第です。

ちなみに、ドイツではこの再生産数が0.90になったら学校を再開するという方針でいるそうです。

以上です。

遠藤洋路 教育長

西山委員、0.99と1.0と1.01と非常に微妙なところですけども、1を切ればいいということなんですかね。

西山忠男 委員

基本は1を切らないといけません。

遠藤洋路 教育長	0.9ぐらいまで下がらないと駄目ですか。その辺はどうですか。
西山忠男 委員	とにかく1を切れば、ぐーっと上がってくることはありません。1日1人ぐらいの感染者でずっと推移していきます。ですから、30日後にはプラス30になっているということになります。
遠藤洋路 教育長	今の状況だったら学校を再開してもいいんじゃないかという判断になりますか。
西山忠男 委員	ぎりぎりのところですよ。だから、私は、そこはもう市長の政治的判断だったと思うんですよ、要請が来たのは。ですから、それは尊重すべきだと思っていますけれども、ぎりぎりのところで推移していますから。それをどう判断するかというのは、まさに政治的判断であろうと私は思っているわけです。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 熊本市は今、独自のリスクレベルというのをつくっていて、リスクレベルが4であれば基本的には全ての施設を閉じる。3であっても今は4と同じような対応をしているということで、今は3と4の間ぐらいかという話になっていますけれども、だから、市長の要請というのは、基本的には熊本市の独自のリスクレベルが3プラス、拡大傾向にあるということで現在は学校を再開する状況ではないというふうに判断を、市長というか専門家会議で判断をしていると。 ですから、リスクレベルが例えば2になるとかいうことであれば、市としても、学校もそうですし、ほかの施設も、今よりも開けるでしょうと、逆にそれが4に上がるようであれば今よりもさらに厳しい措置を取る必要があると。なので、我々としてはリスクレベルが4になったら登校日もやめましょうと。3は今休校していますけれども、基本的には2に下がったら休校解除をやって学校を再開してもいいんじゃないかというのが大まかな判断ですね。 ただ、実際問題3だけど限りなく2に近いとか、またどんどん縮小しているという状況であれば開くということもあるんじゃないかというふうに今思っているところです。大まかに言う

西山忠男 委員

とそういうことにしているわけですがけれども、それと、だからこれがどのような、以降一致するかと、そこも少しあるかなと思いますけれども。

熊本はまだ40人程度で統計的データとしては少ないので、こういう統計的推算がどれくらい確からしいかというのは、ちょっと問題があるのは事実です。こちらの実質レベルの判断基準もかなり曖昧です。ですから、私は、休校はやむなしと思いますけれども、登校日を設けるぐらいはやっていいんじゃないかと。 $r = 0.99$ 、1以下であるということに基づいて、そう判断しております。

苦野一徳 委員

再生産数が一つの判断基準だろうと思うんですが、いろいろと難しい問題が複雑に絡み合っていて、再生産数にしても実際に検査が熊本市は結構できないという場合もありますので、実は r が10倍、20倍あるかもしれないというようなこともよく言われていることですし、あと、いろんな現場の先生方や校長先生とお話するんですけども、やっぱり怖いんですよ、子どもたちが感染してそれを家に持ち帰ってお年寄りにうつしてしまうとか、そのときに誰が責任を取るんだという話になったときに、やっぱり怖くて何をどうしたらいいか分からない、3密を避けるといっても避けようもないし、今は3密さえ守っていれば感染しないというわけでもないというようなことも言われたり、心理的な恐怖もたくさんあるということも聞いていて、できれば休校してほしい、でもその分、学習を徹底的にサポートはしたいという声はたくさん聞きますので、その辺は確かにどこかで判断基準をしっかりと定めなければいけないんですけども、一つの判断材料として、様々な要因を勘案した上で判断しなければならないかなと思います。

その上で、こういった内容は、やはりある意味では最悪の事態を想定した上で、それに対応できるような体制を整えるということが大事だと思いますので、私は、今から半年・1年ぐらいこれが続くかもしれないので、その上でなお、いかに学習権を保障すべきか、それも学習権を保障するだけでなく、今の現状を乗り切るとかやり過ぎとかというような発想ではもはやなくて、この状況をいかに豊かな学びの場にしていくかという発想でシステムをつくり直すぐらいの気持ちで、私はやったほうがいいのではないかなというふうに考えております。

小屋松徹彦 委員

今回はこの臨時休業措置を延長することについてということが議題になっていましたが、その件について申し上げますと、私は、これはやらざるを得ないのかなという意見であります。ただ、そうしますと、これが5月末まで延長されました、今、委員がおっしゃったように、これは5月末で本当に済むのか、もっと長くなるのか、2か月先なのか、半年先なのか、これは全く分からない状況なので、私は5月末を一応期限にしていますが、それから先の在り方というのは休校なのか、開くのか、これもどちらにしても今後の授業組立てというのをきちんとやっていかないといけないのかなと。今は多分、復習の関係が中心なんでしょう。新しい、まだ6年生は5年生の復習とかが中心なんじゃないでしょうか。新しいことをやっているんでしょうか。

遠藤洋路 教育長

今の学習の内容、状況はどうか。

大江剛 指導課長

4月に入りまして、各学校には家庭における学習をお願いしているところでございます。そこで幾つか例示も示しているんですが、最初は学び残しの部分もありましたけれども、新しい新年度用の教科書に載っているものも含めて、家庭でもできるような学習を進めていただくというようなところをしております。

併せましてオンラインでの授業ですとか、あるいはテレビ番組とか、そういったものを組み合わせながらということで、今日の自由討議にもあっておりますけれども、そういったところを進めていただいているところで。

ただ、全学校統一して同じようなところというところはなかなか、今の条件、いろいろなところで違うところがございまして、そこらあたりはまた逐次、各学校の実態も把握していきながら、今、委員の皆さん方がおっしゃっているとおり、長期化も見据えた子どもたちの学習保障を考えていかなければならないと考えております。

以上です。

遠藤洋路 教育長

ちょうど今日の自由討議の議題が休校期間中における児童生徒の学習保障についてということなので、少しそちらを詳しく議論したいなというふうには思っていますが、少なくともずっ

小屋松徹彦 委員

と復習ということではなくて、当然今年度の内容を家庭でもできるような体制にしていくということですね。

おっしゃるとおりで、自由討議で今日テーマになっていましたので、そこでいろいろお話をしようかなと思っていたんですが、話が少し今の段階で広がりましたので、ちょっと触れさせていただいたところなんですけれども、実際、今、家庭の現場の状況はどうかというと、やっぱり1年生から3年生ぐらいというのは非常に難しいんだと、どういうふうに子どもたちが自分を律しながら与えられた課題をやっていくかというのは非常に難しいなというのが今、現場を見ていて思うんですね。それと、4年生から6年生については、ある部分、タブレット等で先生とつながってという部分もありますけれども、まだまだ一部分ということで、そういったことを考えると、やはりどこかできちんとした形の授業体制をつくっていかないといけないというのは間違いないことで、それがいつになるかということ是非常に曖昧ですけれども、今年は特に教育のやり方が変わりましたよね。今までの知識を植え付けるということから、主体的に対話的な学び、深い学びをしようというふうに変わっていきますので、そういう授業の在り方自体が変わっていく、そういうことを考えたときに、少なくともこの5月末までの1か月ちょっとの期間ができました。ここは、今までの先生は非常に多忙でしたけれども、その多忙化の要因であった教科指導、それからその準備、それから部活動、こういったものが今すっぱり消えているわけですよ、ある意味。であれば、この1か月ちょっとの時間は、その後に授業を組み立てていく非常に大事な組立ての時間として使うべきではないかなというふうに思っています。そこら辺の組立ては現場のほうでどうやってやっていかれるのか、これからの課題でしょうけれども、今はそういう時期にあるのかなというふうに思っています。また後でいろいろ話をしたいと思います。

泉薫子 委員

先ほど、子どもたちの健康チェックですとか様子はなるべく見ていくということでしたけれども、障害を持つ子どもさんのご家庭とか、家庭の中にいろんな問題を抱えていらっしゃる家庭とか、やはり長期になるといろんな問題が深刻化したりトラブルを起こしたりということが起こり得ると思いますので、そういった特別支援のクラスの子どものさんですとか、担任の先生

若杉敏郎 特別支援教育
室長

が把握していらっしゃる、そういったご家庭とかということに対して、特に観察なり相談なりを充実させていただければなと思っておりますが、何かそういったことに対しての手だては。

障害を持っている支援が必要な児童生徒さんに対する現状の取組についてですけれども、今、私も学校のほうに参りまして、その状況を確認しておりますけれども、市のほうで行っているタブレットでの基本的なつながり、そこをベースに取り組んでおりますけれども、学校の努力もあって、大分つながっている子どもさんが多いなという印象があります。でも、まだ十分でなかったり、学習まで取り組めていない児童もおるようですので、今後、学校のほうにしっかりその実態を把握するように、こちらからも働きかけていかなければいけないなというふうに考えているところです。

出川聖尚子 委員

臨時休業、5月31日まで延びたということ、今の感染の拡大しているように思えるような状況を見ると、少し安心しました。本日、私の家庭のことですけれども、学校の先生からお電話いただいて、私も子どもも担任の先生と話して、数分でしたけれどもとても安心しました。なので、お休みの期間は家庭に対する、あるいは生徒に対するフォローを充実させていくということを考えていただいて、この大変な時期を乗り越えられたらいいなと思っております。

遠藤洋路 教育長

皆様のご意見を伺っていると、休校の期間を5月末まで延長するという自体に関してはどなたも特にご異論はなさそうですね。そこはそうにしたいと思いますが、その間の登校日であるとか子どものケア、これについての具体策をもう少し示したほうがいいんじゃないかという感じだと思いますが、登校日はどうですかね。苦野委員と西山委員で大分違う感覚を持たれているように思うんですけれども。

苦野一徳 委員

私は登校日を設けること自体は絶対駄目だとは思わないですね。条件付で、やはりそのほうが良いという場合は、選択的に設けることはあってもいいかもしれないと思っております、万全を期してですね。そのほうがよい、リスクを計算しながら、とは思いますが、ただ、現場としてはそれには相当の神経を使うということも考えた上でかなと思いますね。

西山忠男 委員

苫野委員のおっしゃることもよく分かりますし、私も、もし登校に代わる手段があるのであれば、それも構わないと思いますけれども、現実的にやっぱり子どもの状態を把握する、貧困家庭のお子さんがあるんじゃないかとか、それから家庭内暴力、それから虐待を受けているお子さんがいるんじゃないかとか、そういうなかなか表立って出てこない子どもの状態を把握するには、やはり先生が直接合う以外にないんじゃないかと思ってしまいうんですね。それが私が登校日にこだわる理由なんですけれども、登校日としても、例えば学年ごとにやるとか、たくさん生徒が一日に集まらないようにして工夫してやればできるんじゃないかと思うんですよ。とにかく子どものケアが非常に大事です。もう3か月になりますのでね。そこをよく考えて、もうこの案にあるように、絶対登校日を設けないというようなかたくなな態度ではなくて、その辺は少し柔軟に対応していただきたいなと私は思います。

苫野一徳 委員

まさにその代替案といいますか、ほかの案として前回LINEを使って子どもたちのSOSを受け止められるような、それが仕組みとされたということなんですけど、その状況は今どうなっているかというのを、もし今の段階で分かることがあればお聞きできますでしょうか。

遠藤洋路 教育長

LINEの相談ですね。

川上敬士 総合支援課長

4月20日からLINEでの相談は始まりまして、1日目が50件程度、それから2日目が80件を超えています。昨日が60件を超える相談ということで、内容的にはやっぱり親は仕事に行って、子どもが家庭にいますので、あれをしておきなさい、これをしておきなさいと、結構親からいろいろ頼まれる、それについての悩みとか、そのストレスがやっぱり大きいところがあります。

それから、昨日、虐待に関する相談も1件ありまして、これについては今日、もう一度相談に来てくれということで、場合によっては、昨日は名前も教えてくれましたので、もう少し実態をつかんだ上で、状況によっては児相のほうに通告をしようと考えています。登録数が今のところ2,400件を超えるぐらい、6万2,000人に一応チラシを配布しておりますが、

遠藤洋路 教育長

若干登録数は少なめかなというふうに思っておりますので、再度、学校のほうから子どもたちへの周知をお願いをしているところです。

ただ、全体、特に小学校低学年あたりはLINEを使うことはほとんどありませんので、これが実態把握とか、それに直結しているかという、なかなかそこは言い切れないというところですけども、子どもたちは非常に関心を持って相談には来てくれているというところです。

結局、登校日を設けたほうが子どもの状況を把握することができるかもしれないし、一方で登校日を設けないほうが感染が減ることは間違いがないので、どこを取るかということですけども。今のお話にもありましたけれども、例えば小学校の低学年はLINEを使っての相談が難しいし、またタブレットを使った健康管理等も難しいので、総体的に登校日を設けたり直接状況把握をする必要性が高いようにも思います。

先ほどの話からすると、学年が上がるにしたがって、中学生は今聞いていますとほとんどの学年、タブレットを使った家庭とのやり取りができる体制になっているというふうに聞いていますので、学年が上がるにしたがってそういう必要性ができてくるかもしれない。一つの考え方ですけども、全員一律ではなくて、実際に登校日に代わる方法などがどのぐらいあるかによってということもあっていいかもしれないです。今、話を聞いていて思いました。

ただ、それをそれぞれの学校で決めてくれというのはすごく難しいと思うんですね。校長が、分かりましたと、ではうちの学校は感染者が出てもいいから登校日をやりますと断言できる校長はなかなかいない。私たちが登校日を設ける代わりに感染がそこで起こる可能性はあると、そのリスクは承知の上で登校日を設けるか、ここで決めないといけないと。

苦野一徳 委員

登校日を設ける目的は、西山委員のお考えでは、やはり現状把握と、ケアが必要な子どもたちを全て把握してそこにケアの手を差し伸べるためにというのが一番の目的でよろしいでしょうかね。そうだとすると、それを登校日以外の手でいかに充実させていくかというアイデアを出していくというのも大事な観点となりますでしょうかね。

遠藤洋路 教育長	そうですね。だから、それが登校日に代わる方法がちゃんと取れるのであれば、あえて登校日を設けないのが一番安全では。
苫野一徳 委員	もしかしたら、集まったほうが大勢の中の一人になってしまって先生としゃべれないみたいなことももしかしたらあるかもしれないので、そういったことも考えると、こまめに電話連絡をして、何か困ったことがないかとか、そういったことをこまめに連絡する、あるいは朝の会をZoomでやるなり、低学年は電話だけしか難しいかもしれませんが、朝と夕方のチェックイン、チェックアウトの時間ぐらいは、みんなでちょっと一緒に顔合わせて何か困ったことがあったら言ってみようとか、そういう温かい場があれば、子どもたちも安心するのではないかなというふうには思うんですけども。
遠藤洋路 教育長	Zoomでできれば当然電話は必要ないんでしょうけれども、小学校1年生、2年生にはまだ端末が行き渡っていないんですよね。だから、Zoomではできないので、そこは電話でやるしかないかと思います。端末の確保も今一生懸命やっていますけれども、なかなか在庫が。
小屋松徹彦 委員	登校日をつくることの抵抗感というのは、今、感染経路が不明確になってきたということ、どこでどういうふうに感染するかが分からなくなってきたという、経路が不明になっている、やっぱりそういうことがあると、例えば校長先生にしても登校日を設けるといって自体、非常にやっぱり抵抗感があるだろうなというふうに思いますので、ちょっとそこは今のところ現実的じゃないのかなというところで、苫野委員がおっしゃったように、できるだけ、特に低学年の子どもたちにも、おっしゃったように電話とかで、そういったことを密にやっていくというか、そういうほうが現実的じゃないかなというふうに思っています。
遠藤洋路 教育長	泉委員、この中で唯一お医者さんですけども、どうですか、その辺の登校日を設けることによる感染のリスクという、どう考えたらいいでしょうか。
泉薫子 委員	専門ではないので感染のリスクは分かりませんが、保護者が不安だろうなと思います、登校させることに関して。現

状の状態にいけば。ですので、現実的ではないのかなというふうに思ってしまうんですけども、それとやはり苦野委員もおっしゃったように、期間が5月末で終わるとはとても思えないんですね。それは感じていらっしゃる方も多いと思うので、さらに長期化することを見据えないといけないと思いますので、終わったから一斉に登校ということには絶対ならないだろうと思います。それまで、おっしゃるようにLINEの授業とか、そういったツールを使った様々な教育方法というのをしっかり確立するというのはとてもよい機会だったなと、前から不登校の子どものことを考えると、そういった教育のシステムは必要だなと私はもともと思っていたものですから、今回は図らずもといいますか、こういった機会があつてこういうことが充実するというのは非常によいことでもあるなと思っています。

実際、不登校の子が参加できております、オンライン授業です。ですから、一つの教育の形としてこれが継続的にやっていかれることも、先々望みたいなと思っていますところ。それと、あと再開するときの形というのをある程度みんな決めておかないと、急に決められないと思うので、一斉に登校というのはまず無理だと思うので、交代で半分ずつ登校するとか、それは確実にするとか、どういった形が一番いいのか分かりませんが、再開する形も決めていく必要があると思うので、そういうことを見据えた時点で登校日というのを再開するための練習にしていくといいのではないかなと私は個人的には思っています。

どうしてかと言いますと、やっぱり子どもたちは不安になっていまして、さあ学校に行つていいですよと言ってもやっぱりかなりの子が不安、長期になりますから不安を持っていると思うので、少しずつ慣らしていくという意味でもそういった形を、今から再開の方向というのも討論していただきたいなと。

遠藤洋路 教育長

分かりました。再開も当然急に今日から再開、そういうことではないですし、一気に全面的に全員来るというよりは、少しずつ段階的ということになる可能性もあるでしょう。

一応、私の考えとしては、今回5月6日まで休校としていますが、その2週間前ぐらいまでには延長するか再開するかの判断をしたい。今日はちょうど、昨日で2週間から10日ぐらいですかね。ですから、今回、5月末までの休校の延長を決めた場合にも5月中旬ぐらいには、その先どうするかとい

出川聖尚子 委員

う判断をしたいと。あまり直前だといけませんし、逆にあまり先だとそのときの様子も分かりませんので、2週間前後というのが妥当な線なのかなと思います。今回、5月末までの延長を決めたら5月の中頃にもう一度、その後どうするか、それからその体制についても決めるという、そういう機会を持ちたいなというふうに思っています。

今伺った範囲では、登校日を設けるのはあまり現実的ではないんじゃないかというご意見のほうが多いようにも感じますが、出川委員は登校日に関してどうですか。

登校日は、子どもはとても喜んで行きます。普通どおり通常の学校に行くというような感じですか。何か気をつけたりとか全然しないので、感染リスクが高いなというのを感じます。友達とわいわいやっていますし、登校日はなくていいのではないかなと思います。

遠藤洋路 教育長

分かりました。今、一応5月6日までは登校日を設けていいですよということなので、この案でも一応そこはなっているんですよ。5月7日からの延長の期間については登校日はやらない、5月6日までの期間も、もし本市のリスクレベルが4になった場合には登校日も中止するというふうにはしているわけですが。先ほどから聞いていると、5月6日までの間も登校日が大丈夫なのかというふうに思っているような声もあるようには思います。実際、今日とか明日とか、あるいは来週、週明けすぐとかが大体登校日と皆さん設定しているんですね、連休明けにですね。そこはちょっと急になしですよと言われるのも、ちょっとそれはそれで逆に困るので、今予定しているものについて、やってもいいのかなと。もちろん、前提としては、不安な人は欠席してもいいですよ、欠席扱いにはしませんよということになっていますので。今日決めて、じゃ、明日から登校日なしですということも多分厳しいのかなと思います。登校日をやめるにしても7日からの期間ということで考えてもいいんじゃないのかなというふうには思います。

委員の皆さんのご意見では、もう今すぐにもやめたほうがいいのかという感じですか。そこは率直に聞きたいところなんですけれども。

出川聖尚子 委員

子どもの様子を見ていると、登校日があるので宿題の準備を

	<p>するのを見ると、あったほうが規則正しくできるようには思っ てはいるんですけども、親として登校するのは大丈夫なのかな というのを感じているというところです。子どもたちの感染 が広がるという意識は持っていないを目の当たりにすると不安 なんです、登校日があることによって、例えば子どもたちの 学習への意識が維持できるのかなというところはあると思いま す。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>一番いいのは、登校日があるよと言って宿題やらせておいて、 いざ登校日になったら登校しないという（笑）</p>
西山忠男 委員	<p>皆さん、登校日には否定的みたいですけども、私も5月末 で本当に終わるのであれば5月中登校日がなくてもそれはいい と思うんですけども、やはり複数の委員がおっしゃったよう に、これ1年続くかもしれないですよ。もう諦めるかもしれ ない、1年か1年半、ワクチンができるまで。そのことを考え ると、やはり時には先生と生徒が顔を合わせて先生が生徒の状 況を把握するという状況をつくっておかないと大変なことにな るんじゃないかなと思うんです。</p> <p>東京のほうに、さっき言いました再生産数が1.10という ような状況では登校日はできないのは明らかですけども、今 ぎりぎり0.99にとどまっていますから、その間は登校日を 設けて子どもたちの状況の把握に努めるべきではないかなとい うのが私の考えなんです。ですから、さっき言ったように1学 年ずつとかそういうなるべく密集しない状況をつくって登校さ せるというのは考えてもいいんじゃないかなと思っています。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ただ、1年続くとなるとその間の状況というのはもっと今よ りも感染が広がっているような状況だと思うんですね。その 間に登校日というのはなかなか難しくないですか。</p>
西山忠男 委員	<p>いや、だからそうなったとき、そうなったら何もできないで すから、そうなる前の間、せめてでも状況把握しておきたいと いう気持ちです。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。あと、状況を把握しておきたいのは当然、学 校としては。ただ、保護者としてはやっぱり行かせるのは心配、 そこがあるんでしょうね、確かに。</p>

	<p>何か事務局から登校日に関して意見、考えがあれば聞きますが、いかがですか。</p>
福島慎一 教育政策課長	<p>本日の議案の提出に当たりましては、今日のぎりぎりまで皆さんで協議をしたところです。昨日の本部会議でやはりこの次に来る大型連休の人の動きが増加することが想定されておりまして、都市部から地方へ、熊本市へ感染がさらに拡大する可能性が高いという昨日の会議を受けまして、私どもとしては、まずはゴールデンウィーク明け、児童生徒の往來を減らす、止める、児童生徒の集まりを減らす、なくすというところを主眼に置いてこの議案を提出させていただいたところでございます。</p>
岩瀬勝二 教育次長兼教育総務部長	<p>今、福島課長のほうから話があったとおり、実は今日午前中、私ども、相当かんかんがくがくこれについて議論してまいったところです。西山委員が言われるような意見もちろんございまして、一方で苫野委員が言われるような意見も実はございました。そういった中で、やはりなかなかそういった感染のリスクというものを冒してまで登校というのはなかなか難しいよねというようなことで、今回こういったかたちで出させていただいたというような経緯がございます。</p> <p>ただ、当然、それに代わるものとして、厳しい環境に置かれている子どもたちのフォローと申しますか、そういったものについても一方では福祉部門あたりと一緒に連携しながら、取り組んでいく必要もあるのかなと、そういった意見もあるということ、そういったものを併せて考えながらやっていければなということだと思います。</p> <p>以上でございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>塩津次長は、テレビの中ですけれども、意見ありますか。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>なかなか議論が私のほうに聞こえていないんですよ。途切れ途切れになってしまっていて断片的なことしか分からないんですけども、学校にとって5月末までというようなことは、非常に厳しい状況にあることは間違いないです。子どもたちのことを把握したいというような思いも持っておりますので、明確なところで熊本市としてレベル3とレベル4とで違いをつけているので、そこが一番学校としては分かりやすい基準なので、それが市長の話にもあったんですけども、少しでも下がるん</p>

	<p>だったら学校再開とか考えたほうがいいということでしたので、それが登校日等ができるという基準になるだろうというふうに思いますので、今のところレベル3に関しては登校日をさせていただきたい、また下がったら登校日をさせていただきたいというのが学校の思いだと思います。レベル4になった場合は絶対できないというふうなことで、そこは諦めもつきますし、実際、子どもたちのためにそこはすべきでないと思っていますので、それから、この基準でいいのではないかなというふうに私自身思っているところです。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>レベルというのは毎週変わるんですよね。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>そうですね、はい。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>だから、今、5月末までどうするかという話をしていますが、毎週それを判断して登校日をするかしないかと変わるということになるのはあまりよくないようにも思うんですけども、そこはいかがですか。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>2週間ぐらいのスペンをというようなことだったと思うので、そこがその基準になると思うんですね。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>レベル4になるのは毎週判断するわけですよね。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>はい。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>だから、毎週、毎週、レベル4になったら登校日やめますということをその都度判断するということですか。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>そうですね。そういうことになるかと思えますけれども。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>それは大丈夫なの。予定が立たないんじゃないですか、学校のほうの。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>結局、感染の報告とかずっとなされていますので、そこら辺のところは全く判断ができないかということでもないと思うんですね。</p>

遠藤洋路 教育長	<p>なるほど。分かりました。</p> <p>大体一通り皆さんから意見を聞きましたので、そろそろ決めないといけないと思いますが、少なくとも休校の延長は間違いないとして、登校日を設けるか設けないか。設けないとしたときに、どうやって学校のほうで子どもの状況を把握するか。今の聞いていた範囲では少なくともオンラインでやり取りができていたりするものに関しては、いろんなリスクを考えると登校日を設けなくてもいいのかなと思いますが、それ以外の学年についてどうするかですね。</p> <p>菅野委員が最初におっしゃったように、電話で個別に確認する、これも一つの方法なんですけれども、塩津次長でも松島部長でもいいんですけれども、電話での個別の状況把握というのは学校でできますか。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>十分できます。実際、学校からは計画的に電話をかけたかと思っています。ですから、そのやり取りは十分可能ですし、メール等でも可能なことだというふうに思っております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。では、例えば2週間に1回登校日を設ける代わりに電話で、2週間の間に少しずつ電話かけて状況を聞くということも可能なんですか。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>はい、可能だと思います。</p> <p>毎日となるととてもじゃないんですけれども無理なんですけど、1週間のスパンぐらいで順繰りに、今日は1年1組の何時から何時までとか、割り振りをうまくやれば在宅のローテーションとも合わせてうまく回すことは可能です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>もともと登校日も2週間に1回しかないわけで、毎日じゃないので、2週間ぐらいのスパンで順番にやればいいんでしょうけどね。</p> <p>ちょっと皆さん、いろんな意見もありますけれども。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>在宅というようなポストでの仕事としてそこも適しているんじゃないかと思います。先生方の在宅勤務が始まったわけですので、今、教材づくりとか、それから遠隔の授業をやっていますけれども、その間々に計画的に電話をするということは仕事として適しているんじゃないかというふうに思います。</p>

遠藤洋路 教育長

分かりました。やはり学校としては当然状況は把握したいんですけれども、教員もびくびくしながら登校日をする、保護者も行かせたくないという状況もあると。無理にそれを設定して、仮にそこで感染が広がったような場合には非常に後悔、後悔という言い方がいいのか悪いのか、やらなきゃよかったんじゃないかとなるぐらいであれば、やっぱりそこは私は皆さんの気持ちを尊重すれば、無理に登校日を今設定しなくてもいいのかなと、しないほうがいいのかなという気持ちがあります。その代わりに電話で状況把握できるのであれば。

ただ、西山委員が言うようにこれが1年とか1年半とかになると分かりませんが、現状では今の元の案ですけれども、現在予定している登校日については行うけれども、5月7日以降については登校日は行わないというのが一番、私としては現実的などころなのかなというふうに思いますけれども、それでどうですか。

小屋松徹彦 委員

1つよろしいですか。西山委員がおっしゃったように、やっぱりどうしても対面して様子を見たいという気持ちも分からないではない。家庭訪問というのが一つあるんじゃないかなと。例えば訪問といいますが家に入っていくじゃなくて、玄関に出てきなさいと、少し離れたところで話をするとか、そういうこともしてもいいかなと、今、ふと思いましたけれども、いかがでしょうか。

苫野一徳 委員

できればかなりよいとは思いますが、その間に移動がいっぱいあったり、その部分のリスクを考えると、いかに対面ではなくコミュニケーションを密にできるかというほうを考えたほうが、あと、先生方の負担も相当、それはまた出てしまうと思いますので、できるだけオンラインや電話でどれだけコミュニケーションを密にできるかという仕組みづくりを早急に急ぐことが大事ではないかなというふうに私は思いました。

遠藤洋路 教育長

家庭訪問も手段の一つなんですけれども、やっぱり在宅勤務を推進しているということとどうしても矛盾しているという面と、効率としても10分お話をするために30分かけて移動するというのは非常に効率はよくないのかなと。電話のほうがより頻繁に状況の把握はできるので、もう少し外出してもいいよ

	<p>うな状況になればいいのかもしれませんが、現状だとちょっと、いろんなところに外出しないでとにかく家にいてくださいと言っているのとやや矛盾しているかなというふうには思います。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>もちろん、在宅中の教員が行くということは、私もそこまでは考えていませんが、学校に出られたときに、例えばどうしても電話等でやって気になる人がいるのであれば、その方について言いに行くとか、そういうことはあってもいいのかなという程度なんですけれども。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>みんなで、全員をローリングでじゃなくて、どうしてもという場合には。</p>
西山忠男 委員	<p>私も先ほど泉委員が言われたように、特別支援のお子さんが一番気になっているんですよね。だから、そういうやっぱり問題を抱えていそうなお子さんには、小屋松委員が言われたように、家庭訪問という形で状況把握に努めるといようなことはやっぱり必要ではないかなと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>個別に、全員ということではなく、必要と思ったらということですね。</p>
松島孝司 学校教育部長	<p>教育長、私から1点よろしいでしょうか。 今問題になった家庭訪問ですが、委員の皆さんがおっしゃったように、現状ではやはり心配な子ども、例えば電話してもなかなか心配だとか、日頃から気になっている子どもに関しては、必要に応じて家庭訪問を検討してくださいということで、学校には伝えてありますので、今のお話の流れと現段階の対応は一致しております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>はい、分かりました。 そうしましたら、5月7日以降は、登校日は設けないけれども電話等で状況把握に努めるといことと、必要に応じて家庭訪問などを通じて直接会って話をする、こういうことで子どもの状況の把握をしっかりとっていくということでもいいですか。 では、そのような条件でこの議第35号の採決を行いたいと思います。</p>

議第35号、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のための熊本市立学校及び幼稚園の臨時休業措置の延長について、ご承認いただくことにご異議ありませんでしょうか。

（異議なしの声）

遠藤洋路 教育長

ご異議なしと認めます。議第35号は原案のとおり決定いたします。

〔採決〕 【原案どおり承認された】

日程第4 報告

・報告（1）令和2年第1回定例市議会報告について

遠藤洋路 教育長

では、報告（1）令和2年第1回定例市議会報告について、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

出川聖尚子 委員

8ページにある学校図書における図書購入費は政令指定都市の中でどの位置にあるかについて、応答の要旨が、児童生徒1人当たりの図書購入費は政令市の中で最下位であるという回答があるのですがこのことについては今後何か考えがおありなのかお聞きしたいです。

遠藤洋路 教育長

学校図書館の図書購入費が政令市の中で最下位であるという点について、今後の方針を教えてくださいということです。

大江剛 指導課長

申し訳ありません、この件に関しましては把握が足りておりませんので、また改めてご説明できればと思っておりますが、よろしいでしょうか。

遠藤洋路 教育長

去年担当していたのが誰もいないので、確認の上、お願いします。

・報告（2）市立高等学校の改革について（答申）

《濱洲義昭 学校改革推進室長 報告》

遠藤洋路 教育長

ただいま説明がありましたが、ちょうどここに委員長がいますので、苫野委員からコメントをぜひお願いしたいと思います。

苫野一徳 委員

こちらのやはり目玉になりますのがこの3つの柱、市立ならではの特色のある学校、探究的な学び、そして生徒が主体的に学校づくりに参画していく、ここをしっかりと柱として熊本市の高等学校、そして専門学校がより活気づいていくことをやっております。細かいことを言うと長くなりますので、大元だけをコメントさせていただきたいと思います。

遠藤洋路 教育長

では、本件についてご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

これはこれまでも何回かご報告をしてきましたので、皆さんなじみのあることかとは思いますが、このような形で答申が決まったということで、今後これを具体化するように基本計画を策定していくということになります。よろしいですか。

では、本件はほかにご発言がなければ以上といたします。

・報告（3）熊本市学力調査の結果について

《大江剛 指導課長 報告》

遠藤洋路 教育長

私から1点いいですか。

小学校4年、5年、6年生と中学1年生が学力調査の結果を見ると成績が上がっていますが、中学校2年生だけ必ずしもそうっていないという、これは中学校2年生とほかの学年でなぜこういう違いがあるのかというところは何か分析はしていますか。

大江剛 指導課長

中学校2年生におきましては、数学、理科に課題が見られました。やはり理解を要する部分が多いという教科の特性がありますので、先ほど申し上げましたような一斉型の授業ではなかなか理解の定着が図れているかどうかという検証が難しいのではないかと考えます。また、当然、授業の内容もだんだん高度になってまいりますので、特に下位層の生徒への手だてをさらに徹底していく必要があると考えます。

遠藤洋路 教育長	分かりました。確かに中学校2年生を見ても全部の教科ではなくて、数学と理科が下がっていてあとは上がっているんですね。数学と理科の授業の改善にも少し課題があるみたいだということですね。
松島孝司 学校教育部長	小学校の場合はタブレットの影響は若干でもあるのかなと推測しております。中学校は実際、特に2年生はほとんど使っていない状況で試験に臨んでおります。それに比べて小学校はタブレットで学習した効果が若干でも出ている可能性はあるかというふうに分析はしてございます。
遠藤洋路 教育長	タブレットで何をしたら伸びたんですか。
松島孝司 学校教育部長	いわゆるタブレットを使った主体的な学びが何らかの影響、あるいはドリルパークとか、先ほどもありましたけれども、そのあたりは効果として出ているんじゃないかなというふうに考えています。
遠藤洋路 教育長	分かりました。では、これから中学校もタブレットを全面的に導入したら中学校でももっと改善が期待できるんじゃないだろうかということですか。
松島孝司 学校教育部長	という期待をしているところでございます。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 ほかにご意見ありますか。ご質問でも。よろしいですか。 では、ほかにはないようでしたら本件は以上といたします。
・報告（5）熊本博物館における令和2年度（2020年度）年間スケジュールについて	
《田端 文一 熊本博物館長 報告》	
遠藤洋路 教育長	最後の方にありましたけど、このとおりにはないという前提で、その間に何が出来るかを考えていただいて、市民の方、子ども達が博物館だったら楽しめるという企画を作っていただけたらと思います。 よろしいですか。特にご発言がなければ本件は以上とします。

日程第5 自由討議

- ・テーマ「休校期間における児童生徒の学習保障について」

遠藤洋路 教育長

次に日程第5、自由討議に入ります。今月は「休校期間における児童生徒の学習保障について」をテーマに討議を行いたいと思います。

時間は30分程度を目安といたします。討議を始めるに当たりまして、事務局から簡単に説明をお願いします。

《大江剛 指導課長、本田裕紀 教育センター副所長、森江一史 教育センター所長
説明》

遠藤洋路 教育長

では、自由討議に入ります。

時間は30分程度を目安といたしますけれども、これは5月6日までの間は今こういうふうになっていますよということですよ。今日、5月7日以降も、5月末まで休校を決めましたし、もしかするとその先も長期にわたって休校の可能性もあるということで、これからどのように子どもたちの学習の機会を保障していくかということでご議論をいただければというふうに思います。

では、どなたでも結構ですのでご意見があればお願いいたします。

西山忠男 委員

今ご紹介のありました「くまもつと まなびたいム」を昨日拝見いたしました。NHKの「算数をクリエイティブに考えよう！」という番組ですけれども、これ、感想をお伝えしますが、ちょっと説明が早かったなど。1から100までの整数の和を求める問題で、1と100を足して101、2と99を足して101というふうに101をつくって足し合わせるという話ですね。

私、聞いていて、101の組合せ何個あるかなと考えていたら、その考える暇を与えずに101掛ける100でそれを2で割りましょうというふうにもうやっちゃうんですよ。全く考える時間を与えてくれない。だから、そこはやっぱりちょっと工夫が要るなど、やっぱりどうしても相手がいないと説明は早くなります。その間の取り方がとても大事で、やはり子どもたちがいると想定して、子どもたちが考える時間は与えるように

	<p>してやらないと、全然ついていけないという印象を受けましたので、1つしか見ていないので、勝手なことで恐縮ですがけれども、やっぱりつくったら誰か聞いてみて、これでいいのかなというふうな議論を重ねてよりよいものにしていただきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
森江一史 教育センター 所長	<p>ご指摘ありがとうございます。</p> <p>NHKの放送の方は、5分間の番組でどんな内容を盛り込むかということを短時間で考えていきました。今日も次の番組を撮っております、ご指摘の点は次の授業づくりに生かしていきたいと思います。</p> <p>また、民放4社につきましては1時間の番組ないし30分の番組で、その時間をどう活用するかということで、短期間でありましたけれども放送局と調整をしながらつくっていきました。こちらも見ただきまして、ご感想をいただきましたら次の取組の参考となると思います。ありがとうございました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>5月以降のテレビはどうなっていますか。</p>
森江一史 教育センター 所長	<p>これまでの予定では、4月28日までの7回ということで計画しておりましたが、休業期間が延長するという含めまして、その続編を今つくれないかと検討しているところでございます。</p> <p>こちら民放4局の方に今ご連絡を差し上げて、番組枠をいただけないかということ、それから、先ほど課題として言いました放送時間の重複により同じ時間に他の番組が見られないということについても、放送時間を変えていただくこと、また、これまでは学び残しの内容、先ほどご指摘もございましたように復習が中心だったのですが、先ほど指導課から説明がありましたように、新しい教科書を配っておりますので、その教科書を活用した内容の授業を紹介する授業を引き続き制作できないか、今検討を進めているところでございます。</p> <p>以上です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今日、休校延長が決まったわけですから、今これから放送局とも調整して5月にもテレビを続けるということの方向だということですね。そのときはぜひ、今、西山委員からもあったように、間の取り方とかも含めて、どんどんフィードバックを行</p>

西山忠男 委員

って改良していってもらえるといいかなと思います。
なかなかテレビで間を空けるといいうのも難しいですね。

大変でしょうけれども、実際の授業ではちゃんと……

苦野一徳 委員

私もテレビを見させていただいて、昨日、ここにもある「オセロリズム」を、次女、新1年生なのに一度も学校に行けていないのが悲しいですけれども、一緒に「オセロリズム」を楽しませていただきました。低学年に関してすごくよくできた、NHKのEテレの番組を見ているようなクオリティの高さだなとすごく感心いたしました。

ただ、YouTubeに負けちゃうんですよね。やっぱりYouTubeのほうが面白くてそっちにいつちゃうところがあるので、親と一緒に楽しもうとやったら結構楽しんでくれるんですけれども。

それに関して、これからの長期化することを見越しての私からのお願いといいますか、発想をこういうふうには持っていたらとてもいいのではないかなと思うことなんですけれども、番組にしても、あるいは授業にしても、先ほど小屋松委員もおっしゃった主体的、多様的で深い学びへという今流れがある中で、一つの好機として捉えたいなというのはやはり皆さん思っているんじゃないかなと思うんですけれども、この生徒指導の3というのはとてもいいなと思っているんですよ。自己決定、自己存在感、共感的な人間関係、すばらしいなと思ったので、これを最大限生かせるようなこれからの学びの場づくり、そのために、私、発想として一番下に底に敷いておいていただけるとうれしいなと思うのが、やっぱり子どもたちを受け身の学び手とするのではなくて、今このときだからこそ一緒に授業をつくっていこう、一緒に学びをつくっていこう、どうやったら自分たちにとってもっといい学びの場をつくれるだろうかということと一緒に考えていく、そういう仲間として捉えたいなと思うんですよ。子どもたちに教育を与えなくては、学習権を保障しなくてはいけないから今これを与えなきゃ、次これを与えなきゃではなくて、今、みんなにとって何が必要だろうか、今どうすれば一緒にもっといい学びの場をつくれるだろうかということ、たっぷり会話をして、みんな、そうするとまさに自己決定ができる、自分はここの場に関わっているんだ、自己存在感も増す、一緒に共感的な人間関係をつくってこの場をもっといい学びの

場にしていこうというふうにみんなで考えられる、そういうことを基本発想に、ぜひしていただきたいなと思います。

もう一点、少し踏み込むと、例えばもう今や学びが個別化せざるを得ない状況になっていますよね。私は学びの個別化と協働化を融合していくように行動転換すべきだということを、個人的な話で申し訳ありませんが、しているんですけども、個別化せざるを得ないので、コントローラーを子どもたちにある程度委ねざるを得ない。そういう中で、全部、はい今日はここをみんなで学びましょう、次はここをみんなで学びましょうみたいな感じで全部コントロールし過ぎるのは逆に得策じゃないと思うんですね。どんどん進められる子は進めたらいいし、進めにくい子はどんどんサポートしていけばいい、そういう個別的な学びをいかに、しかもみんな時折は顔を合わせるといふか、Z o o m上であつたり何がしかのことをして顔を合わせてサポートをし合える、困っていることはないか、何か助けられるよとか、ちょっと助けてほしいんだけどというようなことが言えるような場をしっかりとつくりながら、個に応じた学びが進めていける、そのために例えば完全な自由進度だったり、あるいは学年の幅を超えた自由進度だったりとかいうこともどんどんできると思うんですね。

この機会に、まだまだもしかしたら6とか7とかになっちゃうかもしれないけれども、そこまで見越して長期化するということを考えれば、ここで本当の意味で一人一人の学びを保障するってどうやればいいんだろうか、学びを一緒につくっていくってどうやればいいんだろうかということぜひ先生方と子どもたちと一緒に考えていく。今は、もうすぐ終わりですけども、先生もすごくあれですけども、先生も困っているんだよと正直に言っていると思うんですね。学校も困っている。だから一緒に考えていく、一緒に学びの場を豊かにしていこうよと。それが一緒に社会をつくっていく、市民を育むという学校教育の本義にも非常に合致するものではないかなというふうに思っています。

遠藤洋路 教育長

おっしゃるとおり、これから子どもたちの主体的な学びということ、もともとやっていたらいけない時期ではありましたが、このような、図らずも実現できる環境が今あるんですから、せつかくですね。子どもたちと協働で新しい学び方を模索していくということは今やられていくことであると

西山忠男 委員

思います。何か今後長く休校に仮になるとした場合に、こんなことをやったらいいんじゃないかとか、こういう方向性、あるいはこんな課題があるという、そういうアイデアがもし委員の皆さんにあれば。ふだん、私たちもなかなか長期的な視点で考えると、いろいろ毎日なかなか目の前の課題に対応するのが精いっぱいという面もありますので。一步引いたところから眺めて、こんなことをやってみたらどうだとか、こんなことを考えてみたらどうかみたいなことがあるとありがたいなと思います。

アイデアではなくて、私が心配しているのは、個々の生徒の学習の進捗状況をどのようにして把握するかということなんですよね。そしてまた、学習が遅れている子をどのように指導していくのか。今までは試験をやればよかったんですけども、ロイロノートを活用して試験みたいな小テストみたいなことをやるというのも手かもしれませんが、それはあくまでも小テストにすぎないですから、多分、家庭学習になってしまうと物すごくばらつきが出てしまうでしょうし、裕福な家庭のお子さんと貧しい家庭のお子さんでは全然環境も違うし、学習の進捗状況も違うと思うんですね。そこをどう把握してどう対応していくのかと、それが一番の課題ではないかなと思いますけれども、何か事務局のほうでアイデアはあるんでしょうか。

遠藤洋路 教育長

生徒の学習状況をどのように把握するか。指導課でも結構ですし次長、部長でも結構ですけども、あれば教えてください。

大江剛 指導課長

西山委員がおっしゃった家庭学習の把握というのはとてもやはり難しいなというところで、文部科学省からも家庭学習の学習状況や成果を学習評価に反映することができるというような通知も出ておりますし、またそういったものが十分定着が図られたと学校長が判断した場合には、学校再開後に改めて授業で扱わなくてもよいというような通知も拝見しているところでございます。あとはそれぞれの一人一人の状況把握ということで、休校延長の前は、プリント学習等ですかを想定はしておりましたが、先ほどの登校日のお話にもありましたように、なかなかそういう紙ベースによる把握の仕方はなかなか難しくなってくるなといったことになると、あと先ほどありましたようなタブレット等、あるいはパソコン等を使ったやり取り等で、

苦野一徳 委員

さらには全員一斉ではなく個別ということですので、児童生徒の理解度に応じたような個別の課題を出していくと、またそれをきちんと教師が受け取って、さらにそれをフィードバックしていくというような作業を今後さらに考えていかなければならないと思っております。

以上です。

具体的な方法についてはこれからしっかり考えていく必要があるかとは思いますが、個別学習計画のようなおどろおどろしい名前じゃなくて、もうちょっとかわいらしい名前で、それぞれがそれぞれの学習計画を立てられるように、高学年くらいからだと思えると思うんですね。先生や仲間たちの助けを得ながら学習計画を1週間とか2週間とか個別に学習計画をつくって、朝と夕方に健康観察をしながら、ちょっと例えばブレイクアウトルームに分かれるなりして、今日は自分はこんなことをやろうと思っているんだよねとか、それいいね、頑張ってくださいとか、そういうお互いのちゃんと支えられている、自分は一人じゃない、個別化が孤立化になってはいけないんですね。必ず支えられている、緩やかな協働に支えられているというニュアンスの中で個別の学習計画にやっていく。夕方にお互いに振り返りをして、自分ちゃんとできたよとか、ちょっと今日さぼっちゃったな、明日は頑張るみたいな、そういう時間を設けられればいいと思うんですね。なので、朝のZoomと夕方のZoom、高学年ぐらいだったらそれでできると思うんですね。

その途中の間に何でも質問していいよZoomとかがあって、ここに入れば誰かが助けてくれるとか、先生がそこに待っているとか、あるいは電話できるとか、ちょっと困ったときに相談できるような機能がそこにしっかりある、こういったものを上手に使えるんじゃないかなと思う。個別学習計画をやっていく中でちょっと今つまづいているから助けてほしいとすぐにSOSが出せたりとか、そのときに先生が個別に対応できる、あるいは別の仲間にも助けてもらうこともできるような仕組みというのはやっぱり上手につくれるんじゃないかなという気がしております。

小屋松徹彦 委員

ちょっとざっくりした話になりますけれども、私の中では5月末までの休校期間が決まりました、ここまでの1か月ちょっと

大江剛 指導課長

との期間をどう過ごすかということ、やっぱり非常に大事なな
ということをおっしゃっているんですけども、その前提に、まず今
の学校の先生たちはどういう動きをしているのかなというのを
ちょっと知りたいんですが、どなたか。

先生が今どういう動きをされているのか。自宅でもいいです
し、学校でやっているのでもいいですし、どういう動きをされ
ているのかちょっと知りたいんですけども。

昨日、ある小学校に朝からお邪魔させていただきました。今
週あたりから先生方も在宅勤務になっておりますので、実際、
学校に来られている先生方の数は少なく、職員室もがらんとし
たような状況でございました。小学校のほうでは特に3年生ま
での預かりがありましたので、出勤されている先生方で交代で、
昨日は2教室で開設されていまして、交代で見守りをされ
ている先生、あと職員室では教材研究、そして先ほどありまし
た、中にはオンライン授業でタブレットで子どもたちにいろ
いろ授業を提供されているというようなところ、また在宅の先生
方におかれましてもいろいろ新しく学習するところの教材研究
等をされているというふうに聞いております。

小屋松徹彦 委員

ありがとうございました。

先ほど苦野先生もおっしゃったんですけども、これからの
先生の授業の仕方というのは大きくやっぱり変わっていく時期
だというときに、今のこのような体制の中で進めていったら、恐ら
くまた同じようなことを繰り返すんじゃないかなという気がす
るんですね。これはもうどこかでこの期間を利用して、では6
月1日からはこういう方向でやっとうと、授業をとか、そ
ういうことをきちんとここで先生たちがやり方を含めて意思統
一をするというか、そういう期間に使ってもいいんじゃないか
かなと思うんですね。今までですと授業しながら新たな取組をし
ないといけないということで、非常に多忙の中で、やりたくて
もできないという状況がありましたけれども、今、すっぱりそ
の部分の抜けているわけですよ。非常にチャンスじゃないかな
と、そういうことに取り組む。

我々は企業経営をやっていると、我々もそうですけれども、
うちは5月1日から新年度ですが、今からどんどん仕事が減っ
ていくのはもう予想できるわけです。そういうときに、でも、
それでもどうするかということをお考えないといけないわけです

ね。そうすると、経費をまず抑えて、頭を低くして、この時期を何とかやり過ごそうというのも一つありますけれども、逆に、今仕事が少ないから、このときに考える事をしっかり考えて、その次の展開をここで考えないかんといい、次年度の計画の中には今までと全く違った、焦点を絞った、この部分について注力しようという、そういった経営企画の作り直しをやるわけですよ、僕らでも。

学校の先生も、今はできなかったこと、この時期にはできるということを考えれば、ぜひこの1か月ぐらいは学校一つになって、こういうテーマで皆さん研究しましょうよと、検証しましょうよということをつくって、さっきおっしゃったようなやり方でやっていくという、そういう何か方向性をつくるような時期にしてもらいたいというのが一つ、それが決まれば、では具体的にそれをどういう形でやっていくというツールの問題がまた次に出てくると思うんですが、一番肝心なのは今どういうふうに進めるの、今までと同じような教科書をまたやっていくの、同じやり方でやっていくのということじゃないところの模索というのをこの時期にはやれるんじゃないかなと。逆にチャンスじゃないかなと思うんですよね。そういう取組をぜひ校長以下、皆さんで意思統一してやるという、そういうことが必要じゃないかなと思っています。

西山忠男 委員

小屋松委員の意見はよく分かるんですけども、多分、学校現場はものすごく混乱しているんだと思うんですよ。要するに6月は、今度は本当に開くのかと、開かなかったらどうしようと、開いたらどうしようと、どっちつかずの状態で両方に対応しなきゃいけないから物すごく大変な状況に置かれていると思うんです。私の友人のお嬢さんがある小学校の教員をしているんですけども、最初に市長が休校の要請を出したときに、ものすごく大変だったと言っているんですよ。開く準備をして、つもりでいたのに、突然あんなに休校と言われたらとてもじゃないけれどもたまったものではないとひどく怒っていたんですよ。それだけ現場は混乱しているということなんですね。これは誰のせいでもないんですけども、見通しが立たないから、宙ぶらりんで何もできないというのが現場の状況なんじゃないかと思いますが、違うんでしょうか。その辺は現場の経験のある人たちに聞きたいんですけども。

森江一史 教育センター
所長

今、ご指摘のとおり部分もあると思いますので、各学校が本当にどうしていいのかわからない状況の中で、これまでの経験もありますけれども、新しい取組にチャレンジしなければいけないということで、それぞれの工夫が出てきていると思います。その情報が各学校にとどまるだけではなくて、今何が起きているかといいますと、各学校間でそういう情報交換を、この時期ですのではなかなか対面で研修も行けません、Zoomを使ってそれぞれの担当者が自分はこの工夫をしているというようなことを、担当者レベルで情報交換しているということも聞きました。それがまたその学校から各区に広がり、また、校長会やそれぞれの先生方が各学校の取組、各家庭の取組を広げようと、そしてまたどういうやり方か知りたいのかということで情報交換が始まっているという状況が出てきていると思います。

小屋松徹彦 委員

確かに現場が混乱しているからこそ、きちんとこれこそやっぱり学校長がトップの判断をすべきときかなと思うんですね。学校を挙げて、ではこの1か月間こういうことを取り組もうよということを出さないと、多分、皆さん方が何をしたいかわからない状況が続くと思うんですね。6月から始まる、始まらないにかかわらず、もう6月からはそういう形でやってくんだと、学校が開こうが開くまいがというようなことでの、そこを固める時期というか、そこを学校単位でやっぱりじっくり話しするというのを校長がやっていっていいんじゃないかなと思うんですね。その上で、具体的にどうするかとなったときに、おっしゃったように、いろんな教師間の情報提供もあるかもしれませんが、まずはそのころの一つの方向性を決めるということは学校単位でやっぱり校長がリーダーシップを発揮しないといけない時期じゃないかなと思うんですね。企業だったらまずトップがどうするかを決めないと、社員たちも戸惑いますから、そこはやっぱり決めていくわけですね。それと今の状況は似ているんじゃないかなという気がします。

遠藤洋路 教育長

例えば3月に休校したときからそんなに簡単に再開するという方針ではなかったと思うんですね。4月の頭に5月6日まで決めましたけれども、5月6日で本当に再開できると思って、延びて本当に一喜一憂するという状況自体がちょっと私としてはどうなのかなという。もう少し先を、長くなるんだろうと

いうつもりでいてほしいんですよ、各学校の先生方には。だから、今は、今回延長するのも、では5月末にまた再開できるんですねとわくわくしていて、また5月の末にえーっとがっかりみたいなことではなくて、それはもう当分長く続くかもしれないというつもりで準備をしてほしい。もちろん短くなったらそのほうがラッキーですけども。

そこは本当に各学校の準備としても、5月6日までと言ったじゃないですかみたいなことではなくて、やっぱりそれは相当長期になってもいいような心積もりでいてほしいなと思いますので、私からも各学校に今日のことを連絡するときにも、決して5月末で終わるとは思わないでほしいということは言っておいてほしいですね。

西山忠男 委員

多分、現場としては開きたいんですよ。開きたいんだと思うんですよ。前回、市長の要請があったときも、もう開けたかったんだと思うんですよ。やっと開けられると思ったのに、市長の要請が来たからまた休校になったというので、そういう反発が出たんだろうと私は推測しています。

今回も5月末までまた延びるということで、現場はかなりがっかりしている人が多いと思います。がっかりするというのはどういうことかという、単に学習の問題だけではなくて、さっき私がしつこく言っているような、やっぱり子どもたちのケアの問題が先生たちの中で重たいものがあるんだと思うんですよ。もう登校日もないと決まりましたけれども、やっぱり直接子どもたちに会って確認したいという気持ちは教師だって必ずあると思います。

遠藤洋路 教育長

やりたいかやりたくないかという問題じゃなくて、できるかできないかという問題なので、それはやりたくてもできないという状況なんですよということを認識しておいてもらいたいなということですかね。

西山忠男 委員

だから、長期戦になるなら長期戦になるで、どうやって子どもたちの学習を保障するか、どうやって子どもたちをケアしていくかというところはやっぱりしっかり考えていく必要があるということなんだと思いますね。そこは小屋松委員が言われたように、校長のリーダーシップで考えていきたいと思いますことなんだろうと思います。

遠藤洋路 教育長

だから、本当に毎回毎回開けるつもりで準備して、再開できなかったらものすごくがっかりするのであれば、最初から8月末まで休校にしますと今日決めてしまって、そのつもりで準備してもらったほうがいいかもしれませんよ、もしかしたら。もっと早く開けられたら、ああよかったねということかもしれない。そのぐらいの感じでいてもらっていいんじゃないかなと個人的には思います。

苦野一徳 委員

小屋松委員がおっしゃったことに関連するんですけども、今、いろんなオンライン授業等々、私も全国でやられているのを見たり、いろいろ関わったりしているんですけども、少し気になるのは、ほとんどがドリル教材なんです。このことは非常に気になっていて、せつかく子どもたちがある意味、今まで子どもたち、多くの場合、大人に決められた時間を、人の時間を生きていたわけですけども、子どもたちがようやく自分の時間を手にしたのに、その時間をまたぞろ大人のほうであれしなさい、これしなさいというのはあまりにもやり過ぎるというのはどうかなと思うところがあって、学習権の保障は前提なんですけれども、このときにこそ本当に学習が好きになるような条件を整えられるんじゃないかなと。

それはやっぱりいわゆる探究プロジェクトというものを核にしてみて、これはいろんなことを考えられると思うんですよ。クラスの中でとにかくこの休校1か月の間、好きなことを徹底的にやってみようよと、何か今できる状況の中で好きなことを徹底的にやるプロジェクトみたいなものをこのクラスでやってみよう、あるいは校長がそうやってこの学校では好きなこと徹底追究プロジェクトをみんなでやってみようよと、やりたくない人は別に参加しなくてもいいよぐらいの感じで、軽い感じでとにかくコントロールは子どもたちに委ねてそれをサポートし、それはもうみんなで持ち寄るんですよ、たまに。自分は今こんな徹底的に好きなことをやっているよと、自分の好きなこと、レベルが違ったらもっとこんなことをやってみようかなとか、お互いの相乗効果を見ながら、学びってこういうことか、自分が好きなことのためにこんなふうに学べるんだ、こういう感覚をぜひ今の時期に、子どもたちに、今だからこそたっぷり時間を使って自分たちの時間を生きてほしいなというのをとても思っています。

	<p>ほかにもいろんなプロジェクトをやってもいいんですよ、ビブリオバトルをやってみるとか好きな本を徹底的に読みまくる時間にするとか、いろんな自分たちのプロジェクト、これは親や先生とか校長が決めるんじゃないで、子どもたちが決めてもいいと思うんですね。このクラスでこういうことをやってみようよとか、そうやって学びは自分たちの手にあるんだということを子どもたちが徹底的に体感するような時間に私はぜひしてほしい、そしたらそれが明けた後、必ずドライバーになるはずなんですよ、学びの。そういった時間をぜひ熊本市でそれができたらものすごく画期的じゃないかなと思っております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>それをやるには結構長めに休校ですよというつもりでないといけないですよ。その1か月ひたすらそれを取り組みますということは、もうその先まで休校という前提なんですよ。</p>
苫野一徳 委員	<p>取りあえず1か月間何か好きなことを徹底的にやってみるプロジェクトみたいなのがあってもいいかもしれないですよ。その後も見越して、いやもう大体の先生も子どもたちも市民も、これがもう6月に開けるとあまり思っていないと思うんですよ。ですので、でも取りあえずはそれぐらいで一回区切って、何かそういったプロジェクトを、勉強ってこんなに楽しいんだ、学ぶってこんなに楽しいんだ、探究するってこんなに楽しいんだという時間をぜひやっていただければ嬉しいなと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>大学は、大学の先生も1学期間、休校がありますか。</p>
苫野一徳 委員	<p>いいえ。</p>
西山忠男 委員	<p>いいえ。オンライン授業です。</p>
出川聖尚子 委員	<p>学園大は5月7日スタートで、1か月間オンライン授業の予定で、その後は対面の予定です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>では一応再開するという前提なんですよ。</p>
出川聖尚子 委員	<p>はい。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>大学によっても若干違いますね。</p>

	<p>大学のオンライン授業は何かうまくいっていますか。</p> <p>理系はものすごく今バタバタと準備をしているところです。実験実習もオンラインでやれと言われて、非常に困っているところで、実験実習を演習みたいに切り替えたり、あるいは実験実習だけ後期にずらしたりとか、そういう工夫でやろうとしています。講義に関してはビデオカメラで撮っている先生もいれば、ウェブのシステムの中に音声を入れたものをアップロードしてそれを見てもらうという形にしている先生もいますけれども、慣れない人が多いので、本当にみんなバタバタ非常に大変な思いをしてやっているところです。</p> <p>大学の場合は学部生以外に大学院生がおりますので、研究が中心なので、どうしても大学に出てこざるを得ない状況で、これというのはやっぱり最大の問題なんですよ。感染するとしたらそういう場所で発生するので、研究室の実験なんかもなるべく密集しないように注意しながらやっているし、怖い人は無理して出てこなくていいよという形でやっています。</p> <p>ただ、長引くと卒論とか修論の単位が出るのかなという恐れがあって、その後の就職にも関係してきますし、もちろん就活も遠隔でしかできないとか、非常に大変な状況にあるのは事実です。</p> <p>確か新聞で読んで気になったのは、高等学校の単位を文科省が対面授業でないと認めないと言っているという記事が二、三日前に出ましたよね。だから、あれは高校にとっては非常に致命的ですよ。</p>
西山忠男 委員	大学のオンライン授業は何かうまくいっていますか。
西山忠男 委員	理系はものすごく今バタバタと準備をしているところです。実験実習もオンラインでやれと言われて、非常に困っているところで、実験実習を演習みたいに切り替えたり、あるいは実験実習だけ後期にずらしたりとか、そういう工夫でやろうとしています。講義に関してはビデオカメラで撮っている先生もいれば、ウェブのシステムの中に音声を入れたものをアップロードしてそれを見てもらうという形にしている先生もいますけれども、慣れない人が多いので、本当にみんなバタバタ非常に大変な思いをしてやっているところです。
遠藤洋路 教育長	大学の場合には学部生以外に大学院生がおりますので、研究が中心なので、どうしても大学に出てこざるを得ない状況で、これというのはやっぱり最大の問題なんですよ。感染するとしたらそういう場所で発生するので、研究室の実験なんかもなるべく密集しないように注意しながらやっているし、怖い人は無理して出てこなくていいよという形でやっています。
遠藤洋路 教育長	ただ、長引くと卒論とか修論の単位が出るのかなという恐れがあって、その後の就職にも関係してきますし、もちろん就活も遠隔でしかできないとか、非常に大変な状況にあるのは事実です。

本田裕紀 教育センター
副所長

を見るみたいなことをやっているんですか。それとも、そうでもないんですか。

私も全部見たのではありませんけれども、幾つか授業を見させていただきましたが、例えば国語だったら詩のところ、実際その詩の表現技法を自分でまとめて出したり、それに対して、まとめたことを生かして自分で実際に読んでそれを録音して出したり、その把握をお互いにやったりとかいうことをしている。それから、英語の中では先生が、自己紹介の、ALTの先生と一緒に課題といいますか、そういうのを出して、自分なりに自己紹介を英語でつくって、キーワードを生かしながら、それで出したりとか、本当に大きい探究的な学びとまでいかないとは思いますが、ただ単にドリルをやっているというよりも、今そういうオンラインも頻繁にZoomが使えるような状況では実際環境的にはないんですが、通信量のこととかもあって、ただ、課題に対して子どもたちが取り組んで、それをアウトプットできるというところでは少しずつ取組は進んでいるのかなというふうには認識しているところです。

遠藤洋路 教育長

それはせつかくこういう機会なので、できるだけ工夫してほしいですね。みんなにタブレットがあるわけではないという前提ですけども、いかに子どもたちが主体的に取り組めるような課題を出せるかということは各学校で工夫してもらっているとは思いますが、ただドリルをやっているだけとかには、もちろん先生方もしてはいないとは思いますが、それはむしろこのチャンスにいろんなことを考えてもらうということなのかなと。

泉薫子 委員

先ほども言いましたように、私が見ている不登校の子どもたちがオンライン授業にほとんど参加できています。不登校の子どもたちの教育というのは非常にどうしたらいいかというのを考えていたところ、こういう経験をする一つの道だなというのが見えてきています。ですので、ぜひともこの期間だけのものではなく、再開しても多分元の形には、社会全体が戻らないのではないかと思います。何らかのオンラインの、診療もそうですし、会社もそうですし、そういうシステムを残しながらの多分再開になると思うんですね。学校だけが全部対面に戻ってしまうというのは、多分少し世の中に合っていないのではない

	<p>かなと思いますので、ぜひ少しずつ充実させていていただいて、再開するときに恐らく不登校は増えていると思います。ですので、それに対応する教育システムというのをぜひ、オンラインという一つの実験ができて、成功するということが手応えが見えております。集団が苦手な子ども、それと緘黙の子、社交不安の子、みんなの前で発表できない子どもも字に書いたら出せたと言っているんですね。そんなふうに参加することができるということが非常に大きな自信になってきていると思いますので、ぜひこれは継続して、休校期間だけの問題ではなく、ずっと進めていただきたいということが一つです。</p> <p>それともう一つは、保護者の方が非常に心配していらっしゃるのはいんじやないかという。これはまた、これが終わった後の私の課題になるのかなというのは思っているところなんですけれども、ぜひ使い方の教育も一緒に、ルールづくりも一緒にして、SNSの使い方というのを子どもに教育していただけたらなと思っています。</p> <p>以上、お願いします。</p>
遠藤洋路 教育長	学校を再開した後もオンラインがいい人はオンラインでもいいんじゃないかという。
泉薫子 委員	私もそう思います。
遠藤洋路 教育長	不登校の子はオンラインのほうがいい。
泉薫子 委員	同じクラスじゃなくてもいいので、本当にバラバラでいいので、集まる必要がないので、そんなに大変ではないかなと思うんですね。
遠藤洋路 教育長	文科省もたしかオンラインでも出席扱いにしてもいいぐらいな話をもう既に休校前から出していたような気がするんですね。そう考えると、不登校ですと言えればオンラインでいいということになるのかもしれませんが、そのときに、ただ教室でやっている授業を流すだけだと面白くないので、そこはちょっと工夫しないといけない。
泉薫子 委員	そうですね。ぜひその子どもたちに合った実質的な系統立つ

遠藤洋路 教育長

た授業と、それとそういう発展的なこともできるようなものもあるとすごくいいかなと。

分かりました。

小屋松徹彦 委員

去年の小学校の教科書選定するときにも感じていたんですけども、とにかくボリュームが多過ぎる。要するに、35単元、ずらっと全部が揃えてつくってあるみたいなものだったわけですよ。今度、仮に授業を再開するとしたらやはり教科書に基づいてやっていくということになってくるわけでしょうけれども、そのときに先生方、またその35全部を消化するというようなことで入ってしまうと、子どもたちは多分もう疲れてしまうと思うんですよ。だからそうではなくて、うちのこれだけを使ってやりますという、極端に数を減らしてでも、逆にそこで今回しなきゃいけないのは、子どもたちが自分で判断できるのか、そういう主体性を育むというか、そういう教育に転換しようというときなので、そういうことも踏まえて、全部を使ってやっていくのではなくて、この一つの単元を2時間かけてやろうとか、そういうふうに先生の裁量の幅も出るかもしれませんが、子どもたちがとにかく自分たちで考える時間をつくってあげるとい、そうすることが逆に子どもたちの負担感を少なくしていったやる気につながっていくということもあるかもしれないので、そこら辺をちょっと先生が気をつけて取り組んでもらえればなというふうに思っていますね。

出川聖尚子 委員

一つは、私も遠隔授業をしないといけないので、その遠隔授業をするために資料の題材をつくるんですけども、大学の専門の事務の方から、映像を15分ぐらいつくって、その後、学生が学べるような題材を作り、そしてまた15分ぐらいの映像を見せてというふうに言われたんですね。自分の授業を考えると、以前の聞くだけの授業よりも、学生がしっかり学ぶのではないかなというふうに思いました。遠隔授業を生徒さんが理解できたかなと考えながらつくられるといいのではないかなと思います。短くても子どもがしっかり理解したかどうかを確認できるような方法つくるのがいいのかなと思います。先生のご負担は遠隔授業もですが、提出物の確認が大変になるのかなと思いますので、そこをしっかりとっていくということが必要かなと思いました。

	<p>それともう一つが、さっき苦野委員もおっしゃっていたんですけれども、今子どもはなかなか外にも出られないし、部活動もできなかつたりして、残念なことも多いんですけれども、ゆったりとした時間が流れているというのもあるかと思うんですね。いろんなことをさせられていたことをせず自分で計画して過ごすことができるので何でもいいので自分の好きなことをしたり、好きなことを何か見つけてみたり、この1か月の間というような目標をみんなが持っていれば、決して無駄ではない時間になるのではないかなと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。 それでは、時間的には経ちましたけれども、皆さん、ご意見を一通り伺いました。休校期間中のということですから、今のお話でいうと、その後に関して大分伺ったかなと思いますけれども、他にご発言したいという方がいらっしゃればお願いします。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>ツールの話でいきますと、例えばテレビのヒントがありましたけれども、シティエフエム791ですか、あそこを利用するというのは一番やりやすいんじゃないですかね。やっていたらしゃるんですか。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ラジオですね。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>ラジオ、やっているんですか。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>テレビだけじゃなくてラジオも。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>シティエフエムって熊本市に一番密接ですからね、それを利用できないのかなと思いましたけれども。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>そうですね。そこはどうですかね、できますか。</p>
森江一史 教育センター 所長	<p>実は、RKKからもテレビだけではなくてラジオという話も出ているというふうに聞いておりますし、FMKからもラジオでできませんでしょうかという話があります。ただ、現状としましては、ラジオになりますとテレビとは違いますので、一方的に伝えるだけなんですけど、内容的にどういう扱いができ</p>

	<p>るかということ考えたときに、少しテレビとは違うなということで、検討しております。テレビ局からだけではなくて、ラジオも使えるということはお話を伺っておりますので、そこも検討が必要かと思えます。</p> <p>もう一つは、子どもたちがラジオを聞く環境にあるかということがありますので、低学年でラジオを聞かない子もいるんじゃないかということも話題になりました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ラジオを知らない。</p>
森江一史 教育センター 所長	<p>ラジオそのものを見たことがない、知らない。</p>
西山忠男 委員	<p>スマホで聞けないんですか。</p>
森江一史 教育センター 所長	<p>スマホで今はできます。ですから、そういうことも含めまして、ラジオもスマホでインターネットを通して聞けるということも今後検討することができると思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>インターネットで聞けますし、車でも聞けるかもしれない。ラジオを聞けない環境、テレビと比べると機会は少ないかもしれないけれども、聞こうと思えば結構聞けるようになるんじゃないかと。</p>
苫野一徳 委員	<p>ジャストアイデアなんですけれども、昔、科学の先生が子どもどんな質問にも答えるというラジオ番組がありましたよね。ああいうのがすごく楽しいんじゃないですかね。今この時期だから、子どもたちが恐竜について今こんなことを調べているんだけどこれどうですか、何でも答えてくれる先生たちがそこにそろっていると、学びって楽しいな、先生ってすごいな、大人ってすごいな、こんなふうになりたいなとか、そういう夢がかき立てられるような番組ができそうな気がしますけれども。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>何でも答えてくれる先生が。</p>
泉薫子 委員	<p>博物館にお願いするとか。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>いいですね。</p>

泉薫子 委員

博物館とコラボしてそういう、本当は、子どもは耳からだけの情報というのはなかなか苦手なんですよ、集中時間が短いので。だから、今みたいな、自分が質問したことの答えだったら聞ける、向こうからはちょっとなかなか集中できないかも。

遠藤洋路 教育長

方法的には難しいんでしょうけどね。確かに子どもが質問してそれに答えるというのはテレビよりも子どもが出やすいかもしれませんね。来なくていいから、家で電話でもいいし。その辺は確かにラジオ局と相談してみたらどうですか。あと、何でも答えられる先生がいるか、博物館にいますかね。

西山忠男 委員

今のお話で重要なポイントは、やっぱり双方向性だと思うんですよね。オンラインだとどうしても一方向性になりがちなので、オンラインで授業をやるとしても双方向性をどうやって確保するのか、ロイロノートを活用するという方法はあるでしょうけれども、そうやって子どもたちの興味と関心を引き出していきながらやらないと、飽きちゃいますよね、見るだけだったら。そこが重要なポイントだろうと思います。

遠藤洋路 教育長

質問を事前にもらっておけばその分野の専門の先生に答えてもらうというのはできるんですけどね。ぶっつけ本番で質問されて答えるのはなかなか少し難しいですよ。

分かりました。

よろしいですか。

では、いろんなご意見、アイデアが出たところで自由討議は以上といたします。

これから、もしかしたらもっと長期戦になるかもしれませんが、子どもたちの学習の機会が確保できるようにいろんな工夫をしていきたいと思いますので、委員の先生方もぜひまた何かいいアイデアが浮かんだら、その都度で結構ですから教えていただければ助かります。

では、自由討議は以上といたします。

〔非公開の審議〕

日程第3 議事

・議第32号 熊本市特別支援学校等教科用図書選定委員会委員の委嘱等について

《若杉敏郎 特別支援教育室長 提案理由説明》

[採決] 【原案どおり承認された】

- ・議第33号 熊本市附属機関設置条例の一部を改正する条例案に対する意見について

《川上敬士 総合支援課長 提出理由説明》

[採決] 【原案どおり承認された】

日程第4 報告

- ・報告（4）熊本市立学校教員採用選考試験の実施について

《岩崎高児 教職員課長 報告》

[閉会]

遠藤洋路 教育長

本日の日程は全て終了したので、令和2年4月の定例教育委員会会議を閉会いたします。